

ここがポイント ……………

生徒の振り返りが
学びを変える

5 生徒とともに振り返る

学習活動としての振り返り

本時の学習の振り返りは、生徒が自分の理解したことを整理するために行う学習活動です。

生徒にとって、単元（題材）ごとの学びの中で、何が分かって何が分からないのかを自分で把握することは大切です。

教師は、生徒の振り返りから、生徒一人ひとりの分かっていること、分からなかったことを分析し、今後の授業の中での工夫につなげる必要があります。生徒の振り返りに寄り添い、適切な言葉掛けをすることによって、生徒の学習に対する意欲を育てるとともに、教師自身も成長するチャンスとなります。

次時につなげるための振り返り

生徒にとっても、授業で理解したことを確認することが必要です。分からなかったことがあれば、復習したり、調べたり、次の時間に確認したりする必要があるでしょう。自分のことを自分で理解することはステップアップするチャンスなのです。また、活動の振り返りによって、「自分の考えを発言できた」、「次回は友だちの意見を聞きたい」といった学習態度の育成にもつながります。

振り返りはいつさせる？

学習活動として、授業時間の中に位置付けたいものです。振り返りですから、終わりの数分間をあてることが多いでしょう。しかし、単元（題材）の最後や家庭学習で振り返りをさせることもできます。学習活動のねらいに合わせて、時間を確保しましょう。

個別支援
が必要な
生徒への
対応を考
えよう

効果的な振り返りの活用

授業カードを使い、「ねらい」、「分かったこと」、「難しかったこと」などを書き込めるようにすると、生徒は授業の振り返りがしやすくなります。

また、生徒の努力したこと・がんばったことを教師が拾い集め、それを生徒に返すことを考えましょう。

教師の評価だけでなく、友達によるプラスの評価が生徒本人に伝わることも、更なる意欲につながります。



ワークシートを活用した振り返り

〈例〉 「家庭科 マイ枕の製作」(15時間扱い)

〈ワークシートのねらい〉

- ・時間ごとの進行状況を確認し、作業を効率よく進める。

「マイ枕」製作記録カード

時間	作業	予定	取り組んだ日付	振り返り	先生から
1	製作工程の全体計画	6/3			
2	デザイン画作成	6/3			
3	型紙作成	6/10			
4	裁断・印つけ	6/17			
5	仮縫い				
6	本縫い				
14	仕上げ				
15	発表会				
感想					

予定の日付で進度を確認させる。
一つの工程に時間がかかったり、やり直したりすることがあるので日付欄は2列以上設ける。

授業の終わりに授業の振り返りを記入させる。

生徒の振り返りに対してコメントを記入する。
作品を確認し、次回の作業についてアドバイスする。

☆できたことを互いに認め、喜び合える関係づくり

振り返りの中で、できなかったことばかり考えるのではなく、できるようになったことを共有できる仲間づくり、雰囲気づくりを考えましょう。皆で伸びていくことによって、より学びが深くなり、学習する喜びにつながっていくでしょう。

〈活用方法〉

- ・時間の終わりに、振り返りを記入させ、作品を確認した上で次の作業へのアドバイスを書き込む。
- ・時間の始めに生徒に配付し、教師のコメントを確認させる。
- ・本時の作業や、やり直しの場合は理由等を確認させる。
- ・同一の作業段階の生徒を集めて、作業の確認や指導をする。

実技を伴う教科での振り返り

技能の習得には毎時間の積み重ねが必要です。できたこと、できなかったことを整理して次のステップへ進ませ、技能の向上や作品を完成等へ導くことが大切です。振り返りを有効に活用して、良いものを目指す姿勢を常に追求してほしいものです。

「生徒による授業評価」

神奈川県では、生徒の確かな学力を育成するため、各学校における教師の指導力の向上や授業改善を図るとともに、生徒自らが学習への取組を見つめ直す機会とすることを目的として「生徒による授業評価」を実施しています。この活用を図ることによって学校の実態と課題を把握し、組織的な授業改善を継続的に実践していくことが求められています。